

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語Ⅱ B	
科目基礎情報							
科目番号	0033			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	「精選現代文B」(東京書籍)、「精選古典B 古文編」(東京書籍)、「精選古典B 漢文編」(東京書籍)、「ステップアップ高校漢字問題集」(東京書籍)、「カラー版新国語便覧」(第一学習社)						
担当教員	薄井 信治						
到達目標							
①漢文や漢詩の背景と要点を理解でき、短い説明文が書ける(復習カード、定期試験) ②漢文や漢詩、漢語についての質問に答えられる(口頭試問、定期試験) ③漢詩を鑑賞し、鑑賞文を指定の形式で書ける(レポート) ④訓点や句法を理解できる(定期試験、小テスト) ⑤漢文の教材を用いた意見文が書ける(レポート)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目1	復習カードに、要点を適切な説明文で3行以上、3つ書ける。		復習カードに、要点を3行以上、2つ書ける。		復習カードに、要点を簡条書きで3行以上、3つ書ける。		復習カードが提出できない。
評価項目2	口頭試問に9割以上正答できる。		口頭試問に8割以上正答できる。		口頭試問に7割以上正答できる。		口頭試問に5割しか正答できない。
評価項目3	漢詩の鑑賞文を指定の形式で、かつ説得力ある文章で書ける。		漢詩の鑑賞文を指定の形式と字数で書ける。		漢詩の鑑賞文を指定の形式で書ける。		漢詩の鑑賞文を提出できない。
学科の到達目標項目との関係							
教育目標 (G) ①							
教育方法等							
概要	第2学期開講。 検定教科書を用いる。授業では音読と訓点に重点を置く。詩文の背景の説明を詳しく行う。						
授業の進め方・方法	教科書本文を読解し、内容理解の確認のために口頭試問を行う。						
注意点	漢文は非常に完成度の高い人工言語である。そして訓読漢文は日本人が血肉としてきたものである。訓読することで、省略されることが多い主語や目的語が分かり、品詞や時制が分かるようになる。 日本語は、いつ、どこで、だれが、といったことを曖昧なままで使うことができる言語である。そんな日本語にとって、訓読漢文は外してはならない芯なのである。訓読漢文に親しみ、読めるようになって、日本語の力をさらに向上させて欲しい。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス (小話) ①			「小話」を読むことで漢文を学習する意味を再確認できる。 訓読を理解し、訓読漢文の読み方を理解できる。	
		2週	(小話) ②			「小話」を読むことで漢文を学習する意味を再確認できる。 訓読を理解し、訓読漢文の読み方を理解できる。	
		3週	(近体詩) ①			漢詩とはどういうものかを理解できる。 ・唐詩の読解の仕方を理解し、鑑賞できる。	
		4週	(近体詩) ②			漢詩とはどういうものかを理解できる。 ・唐詩の読解の仕方を理解し、鑑賞できる。	
		5週	(近体詩) ③			漢詩とはどういうものかを理解できる。 ・唐詩の読解の仕方を理解し、鑑賞できる。 ・鑑賞文の書き方を理解でき、実際に鑑賞文を書くことができる。	
		6週	(史記) ①			「史記」を元に史話の読み方を理解できる。 「史記」に描かれる人物像をつかむことができる。	
		7週	(史記) ②			「史記」を元に史話の読み方を理解できる。 「史記」に描かれる人物像をつかむことができる。	
		8週	(史記) ③			「史記」を元に史話の読み方を理解できる。 「史記」に描かれる人物像をつかむことができる。	
	2ndQ	9週	(人間論) ①			「論語」「孟子」「荀子」を読み、古人のものの見方や考え方を理解できる。	
		10週	(人間論) ②			「論語」「孟子」「荀子」を読み、古人のものの見方や考え方を理解できる。	
		11週	(人間論) ③			「論語」「孟子」「荀子」を読み、古人のものの見方や考え方を理解できる。	
		12週	(人間論) ④			「論語」「孟子」「荀子」を読み、古人のものの見方や考え方を理解できる。	
		13週	意見文を書く①			思想教材をもとに意見文を書く準備ができる。	
		14週	意見文を書く②			思想教材をもとに意見文を書くことができる。	
		15週	定期試験				
		16週	試験返却・解説			試験解説により、訓読漢文についての理解を深める。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるすることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

評価割合						
	試験	小テスト	レポート	口頭試問	復習カード	合計
総合評価割合	60	5	15	10	10	100
知識の基本的な理解	40	5	15	10	10	80
思考・推論・創造への適用力	20	0	0	0	0	20
汎用的技能	0	0	0	0	0	0
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0